

## 実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	多自然川づくり計画支援ツールの研究開発
助成事業者	宮崎県多自然川づくり推進研究会
代表者	会長 杉尾 哲
<p>(目的)</p> <p>宮崎県で多自然川づくりを推進するため、河川改修の計画段階において、実務を担当する県と企業の土木技術者が自ら河川環境を容易に測定でき、構想している内容が、自然が多様で豊かな良い川づくりになっているかの妥当性を客観的に容易に評価できる多自然川づくり計画支援ツールを開発して、県と企業の土木技術者に提供する。</p>	
<p>(概要)</p> <p>本年度は、3カ年の実施計画の最終年度として研究計画の重要な最終部分を下記のように実施した。</p> <p>調査項目は、土木技術者が容易に測定できる多自然川づくりチェックシートの流路の条件と生息場の条件、五感を使う項目などの17項目とした。</p> <p>これまで実施してきた調査よりも更に容易に調査項目を測定できるようにするために、多自然川づくりチェックシートを改訂し、多自然川づくりチェックシートの解説書を作成して研修会で説明するとともに冊子を配布した。</p> <p>調査に使う水生昆虫採取網や透視度計などの測定用具を県内4土木事務所に配置して、土木事務所等と企業が共用して使用できるようにした。</p> <p>予定通りに河川改修計画時の多自然川づくり計画支援のための評価プログラム最終版を構築し、研修会を開催して県の12土木事務所等と企業13社の土木技術者に配布した。</p> <p>この評価プログラムを活用することで、河川改修計画時に改修構想による河川環境の改善効果を容易に客観的に把握できる。</p> <p>宮崎県立延岡高校のスーパーサイエンスハイスクール事業での北川のフィールドワークを指導する機会を得て、この評価プログラムが、河川改修計画時だけでなく、施工後の河川環境の状態を容易に評価でき、一般住民への多自然川づくりの啓発活動など様々な活用できることを確認できた。</p> <p>以上の結果、この評価プログラムを活用することによって、宮崎県の河川事業を担当する土木技術者が河川環境を量的に評価して客観的に妥当な内容で容易に計画できるようになった。このことから、本評価プログラムの開発は、県内の多自然川づくりを推進する上で大きな成果であると考えている。</p> <p>今後は、本研究開発の成果が実務に活用されて、自然が多様で豊かな良い川づくりが宮崎県内で益々推進されることを期待している。</p>	